

## 女川町復興まちづくり住民説明会（石巻） 議事録

日 時：平成24年2月10日（金） 18：30～20：30

場 所：石巻合同庁舎1階 会議室

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員  
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

### 1.挨拶 須田町長

### 2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
  - ・災害公営住宅整備事業
  - ・防災集団移転促進事業
  - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

### 3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

Q. 町内の公営住宅は全部集合住宅なのか。

A. 集合住宅でやった方が、1か所で多くの世帯を供給できるという側面がある。町内では集合住宅タイプでの公営住宅を基本としている。

Q. 荒立で道路が崩落している。どこまで対応してもらえるか。

A. 法面も道路ともに直さざるを得ないと思う。今回土地利用のエリアに入ってくれば、防災集団移転なり、土地区画整備事業の公共施設の再生ということで、皆さんの土地にかかってくることも。今後の個別での聞き取り調査、意向確認しながら進めていく。

Q. A' エリアでは盛土するということだが。

A. 今後の地震も考えて、安定した地盤になるように施工していく。

Q. 災害公営住宅入居の要件はどうか。世帯主が被災していれば入居できるのか。

A. 災害公営住宅の入居基準は、被災した人が対象。同居に関しては柔軟性ある。

Q. 女川町から、別なところに引っ越す場合はどうなるのか

A. 女川町以外の災害公営住宅に入れる。しかし、その自治体で優先順位を決めるということはある。その判断は自治体が行う。

Q. 災害公営住宅に入るときに、被害にあったところの近くに入れるということか。

A. 災害公営住宅がどれくらい必要か希望を取る。離半島については漁業集落という特性があるので、ヒヤリングしたうえで戸数を決めていく。町場についても必要な分は確保するが、43行政区にということは難しい。配置についてはある程度の地域性とバランスに配慮する。

Q. 公営住宅はアパート形式になるのか。エレベーターはつけるのか。老人を抱えていると階段だけでは暮らせない。そういうところには入りたくない。

A. エレベーターはつけるようになると思う。高齢者に配慮した、バリアフリーの基準で造っていくようになる

Q. 借り上げ仮設の期限が切れる時期までに、災害公営住宅には入れるのか。

A. 一度には供給できない。国に対し、最低1年の延長要請をしていく。借り上げ仮設から仮設に移れるような制度にし、次の本格的居住までの間に当面の住む場所を確保できるような体制を取っていきたいと

思う。

Q. JR 復旧はどうなるのか。

A. JR は 2 年で浦宿まで復旧の意向。女川駅については場所が決定次第設計を行うことになっている。

Q. 国道は 5.4 メートルのかさ上げをするということだが、5.4 メートルという数値が津波に対して本当に、いい高さなのかどうか。

A. 明治三陸沖の想定した津波に対しては守り切るという高さで計画している。

Q. 盛土するということだけど、今度は揺れに弱くなると思うがどうか。

A. 宮城県沖地震以降、耐震基準が改定されている。施工実績、専門的知見に基づいて業者選定を行う。

Q. 商業・産業についてはどのように考えているのか。

A. 産業に関しては、本格的再稼働ができるように準備を進めていく。具体的には先行復興地域ということで、市場裏を整備していく。企業進出の話が来ている。積極的に活用していきたい。

商業に関しては、女川高校グラウンドに仮設店舗がオープンする。将来的には、モール・複合施設的な場所での展開を考えている。経済活動の中心を担ってもらおう。

Q. ガスの無料チケットについてはどう考えるか。

A. いまどのような状況になっているのか、把握する。

Q. 町外道路、避難道路はどうなるのか。

A. 県、石巻市と連携、調整し 5 ルートを確保する。高台造成地を結ぶ道路についても整備していく計画。

Q. 町外の連絡網、支援整えてほしい。

A. 不備を一つ一つ減らしていくので、協力してほしい。

Q. 病院、神社の移転について。

A. 病院は今のところやっていく。被災した白山神社については、造成地が確定したところで、その背後地あたりに用地を確保したい。熊野神社については総代の方々の話し合いによると思う。

以上